

Periostin Links Skin Inflammation to Melanoma Progression in Humans and Mice

大野, 文嵩

<https://hdl.handle.net/2324/2236137>

出版情報 : Kyushu University, 2018, 博士 (医学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名：大野文嵩

論 文 名：

Periostin Links Skin Inflammation to Melanoma Progression in Humans and Mice
(ペリオスチンによる皮膚の炎症と悪性黒色腫進展の関連)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

慢性炎症が種々の細胞腫において発癌・腫瘍の進展を促進することは広く知られている。しかしながら、悪性黒色腫において、このパラダイムについての包括的な研究はなされていないのが現状である。悪性黒色腫において腫瘍の進展における慢性炎症の効果について研究を行うために、我々は慢性皮膚炎モデルマウスを作成した。モデルマウスにおいて、慢性皮膚炎を有するマウスではコントロールマウスに比べ、B16F10 悪性黒色腫細胞の有意な腫瘍発育上昇を認めた。慢性皮膚炎モデルマウスでは腫瘍間質におけるペリオスチンの発現が上昇し、有意に多くの CD163 陽性 M2 マクロファージが浸潤していた。次に、我々は人検体末端黒子型悪性黒色腫 (n=94) における間質のペリオスチン発現、および CD163 陽性 M2 マクロファージの浸潤を免疫組織学的に検討し、臨床病理学的に分析を行なった。人検体悪性黒色腫において、ペリオスチンの発現および CD163 陽性 M2 マクロファージの浸潤度は予後と有意差をもって関連していた。さらに、我々はペリオスチンが *in vitro* において人およびマウス悪性黒色腫細胞株の増殖を促進することを確認した。これらの結果は、ペリオスチンおよび CD163 陽性 M2 マクロファージが、人およびマウス検体悪性黒色腫の進展および予後において重要な役割を果たしており、ペリオスチンが進行悪性黒色腫の潜在的な治療標的となりうる事を示している。